

令和3年度 第2回 学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和4年2月8日(火)

2. 方 法：書面開催

3. 会議の概要：

- 1) 自己評価委員からの報告(資料提示)
 - (1) 看護基礎教育の改正カリキュラムについて
 - (2) これから本校が目指すべき方向性
 - (3) 教育理念・教育目的・教育目標
 - (4) ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー
 - (5) 教育課程構築の考え方
 - (6) カリキュラム進度表
 - (7) カリキュラムマップ
 - (8) 教育内容の新旧対照表(講義)
 - (9) 本校における領域横断カリキュラム導入の考え方
 - (10) 臨地実習計画新旧対照表
- 2) 学校関係者評価委員による評価…テーマ「新カリキュラムに期待すること」

4. 学校関係者評価委員からの意見

学校関係者評価委員の評価	今後の取り組み
1) ICT、臨床判断技術、多職種連携に向けた科目を新設し、変化していく医療現場へ対応できる看護師を養成することができるものと期待している。コロナ禍で、臨地実習などを実施する際は、感染防止の観点から様々な制限もあるかと思うが、年間を通してカリキュラムに沿った看護教育が無事に実施されることを切に願っている。	医療現場の変化を捉え、柔軟に教育実践に取り入れていく。 感染状況を踏まえて、工夫しながら確実にカリキュラム運営を行う。
2) 教育目的にある「豊かな人間性を培い」というように、他の人も自分も大切にでき、今自分がおかれている立場で何をすべきか、何ができるかを考えられる人間に育てていってほしいと期待する。 新カリキュラムのなかで、新たに経験できることが増えていくと思う。学生にとっては、自分の「こころ」を磨くチャンスが数多くつくられていることはとても良いことと感じた。	人間性育成も重視した教育実践。
3) 看護師はあらゆる場での活躍が期待されている。患者を生活者として捉え、退院後の患者の生活を見据えた看護の提供が求められており、そのため看護師の役割としては他職種との協働、患者家族の意思決定支援が中心となってくる。新カリキュラムでは、チーム医療に必要なコミュニケーション能力や臨床判断技術Ⅱの項目が強化されることを今後期待する。 実習においては、新旧のカリキュラムが混在するため指導者との連携をお願いしたい。また、臨床実践能力と看護基礎教育の乖離に関しては、病院の業務の状況にもよるが病院と学院が連携し、指導者が技術指導を行う機会を多くするなど、学生が学院でどのように学んでいるかを知ること今後検討していければと思う。	臨地実習における看護技術教育の変更点を周知する。新カリキュラム対象学生(1年生)のみならず、現場で混乱が無いよう、2,3年生においても同様に技術経験ができるようにある程度統一した指導とする。 臨地実習指導者研修会等での、授業内容の説明。授業参観の提案。
4) ICTの進展等により授業も遠隔授業を取り入れた画面越しの対話やグループワークが可能となり授業内容が拡大されると思う。利点が多い反面、見えにくいことや伝えきれないこと等様々な工夫が必要かと思う。 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域・在宅への視点が求められている。実習時間も増え大変かと思うが時代のニーズに合わせ、実りある実習を期待し最大限協力したいと思っている。	対象者の場所を問わず、双方向的にやり取りできることがICT活用の利点の一つである。ICTを活用して在宅療養者との遠隔授業を考えている。 ICTの利点を最大限に活かしながら活用したい。
5) 地域包括ケアシステム、地域共生社会の中で役割を担う看護職を育成するためには、地域を理解するための能力、他職種と協働していく能力、コミュニケーション能力が必須であると感じている。これまで看護師育成に関わる中で、なかには看護師主導の看護実践になってしまっている看護師もあり、本来必要とする看護実践ができていないと感じる場面もあった。今回のカリキュラム改正での学びが活かされ、地域包括ケアシステムの考え方で看護実践できる人材が数多く現場に配置される日を心待ちにしている。	看護師として必要な知識・技術の教授だけでなく、対象者(患者家族)を思いやることを大切にして、地域に必要なとされる看護師育成をしていく。
6) 時代の変化と共に看護師に求められる場が広がっている。カリキュラム内容はその内容(ニーズ)に沿った充実したものになっていると思う。内容に対しての意見は特にない。次年度から新カリキュラムのスタート、地域に愛される学生の育成に期待している。	地域を理解し、また教科外活動での地域との交流を通して、より本学院の存在を知っていただき、地域を愛する学生の育成、地域の人々に愛される学生、看護師の育成に努めたい。